

# 令和元年度 函館市教育委員会委嘱研究モデル校の取組

函館市立上湯川小学校

## I 研究の概要

### 1 研究主題

自分の考えをもち、進んで他者と伝え合おうとする子どもの育成  
～主体的・対話的で深い学びへとつながる「特別の教科 道徳」の実践～

### 2 主題設定の理由

本校では、統括目標「みんな輝け 上湯っ子」の下、3つの支持目標である「明るくやさしい子」「たくましく強い子」「すすんで考える子」の育成に努めている。その中でも、特に「すすんで考える子」の育成を基盤とした取組に重点を置き、重点教育目標を「すすんで学び、ともに高め合う子」と設定している。

この目標を受け、目指す子ども像である「すすんで学習に励み、正しい判断のできる子ども」を育むこと、また、実践を積み重ねていく中で、児童が自分の考えをしっかりともち、他者と伝え合う活動を通して多面的・多角的に物事を捉えることができるようになることを願い、本主題を設定した。

### 3 研究内容

#### (1) 道徳の時間における指導方法の工夫

- ・資料提示（一枚絵、映像、実物、紙芝居、音楽、人形劇など）
- ・発問（児童の実態に即した発問の仕方について）
- ・板書（順接的、対比的、構造的）
- ・書く活動（道徳ノート、ワークシートなど）
- ・話し合い活動（ペア、グループ、ネームプレートの活用、座席配置など）
- ・表現活動（役割演技、動作化など）

#### (2) 公開授業の実施

- ・前年度は低・中・高の各ブロックから1名が研究授業を行った。本年度は研究授業以外の学年についても全て授業を公開する期間を設定する。

#### (3) 学習会の開催

- ・道徳教育についての理解を深める機会として、追手門学院小学校講師・多賀一郎氏による模擬授業及び学習会を開催する。

#### (4) 小中連携の取組

- ・毎年行っている高丘小・戸倉中と合同の夏季研修会の内容を道徳で実施する。  
また、地域公開参観日には相互に授業を参観し合い、日常の実践に活かす。

#### 4 研究計画

3年計画（当初は2年計画）の2年目となる本年度は、児童の発達段階を踏まえた指導方法の工夫に重点を置いた授業づくりについて実践を積み重ねながら、授業力の向上につなげていく。

## II 具体的な取組

### 1 指導方法の工夫に

児童の発達段階を踏まえながら、「自分の考えをもつ」・「他者と伝え合う」場面を設定した授業づくりについて、実践を中心に取り組んだ。特に「中心発問」については指導書と照らし合わせつつ、ねらいの達成に向けて検討を行った。

### 2 公開授業の実施

日常の授業や研究授業に生かすことができるよう、全学年で授業を公開する期間（7月～9月）を設け、相互に参観を行った。事後研では「授業全体について」と、「資料提示」「発問」「板書」「話し合い活動」「表現活動」等の観点で交流し、研修を行った。

### 3 学習会の実施

追手門学院小学校講師・多田一郎氏による模擬授業「生命について考えよう」を5年生で行った。学習会では授業の振り返りとともに、「自分事として考える場面へのつなげ方」「道徳ノートの効果的な使い方」等の講話があり、道徳教育についての研鑽を積む機会とした。

### 4 小中連携の取組

夏期休業中に高丘小・戸倉中との合同研修会を開催し、各校の道徳教育に関する情報交流やワークショップを行った。また、11月の地域公開参観日には相互に道徳の授業を参観し、日常の実践に生かすよう努めた。

### Ⅲ 成果と課題

- 児童の実態を踏まえた授業実践交流により、お互いの資質向上につながった。
- 公開授業・研究授業を通して児童の発達段階を共通理解するとともに、児童が自分の考えをもとに他者と交流する場面での様々な手法を知ることができた。
- 1単位時間の交流の目的を考慮した展開の流れができてきた。
- 道徳ノートの具体的な活用の仕方（他者との交流・友達の考え）が見えてきた。
- 実態に応じて発問の仕方を工夫することで、児童が自分の考えをもちやすくなった。
- 実践中心の内容だったため、担任の負担が少なかった。
- △多様な考え方を深める場面設定をどう工夫するか。また、内容を深めようとする時間がかかるので、時間配分が難しい。
- △指導案検討の際は指導書だけでなく、学習指導要領も確認する必要がある。
- △評価の具体的な方法。個人の見取りがどの程度できるか。

### Ⅳ 次年度へ向けて

2年にわたり道徳の授業における指導方法について実践的な取組を行ってきたことにより、本校では全ての学級で児童の実態に応じたスタンダードな授業の形ができあがってきた。これまで授業づくりや事前研・事後研の話し合い等を授業者の視点で行ってきたが、3年目となる次年度は児童の発言や行動に焦点を当て、その変容を見取る内容で研究を推進していく。

## 第1学年 道徳学習指導案

### 1. 主題名

「たいせつな ことば」【内容項目：B 礼儀】

### 2. 本時のねらい

「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉を使ったときと言わないときの互いの気持ちの違いを考えることを通して、気持ちのよい挨拶、時と場に合った言葉遣い、動作を心掛けようとする態度を養う。

### 3. 資料名 「なんて いえば いいのかな」

### 4. 本時案

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 「ありがとう」「ごめんなさい」を使う場面について考える。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <b>基</b> 「ありがとう」「ごめんなさい」は、どんなときに使いますか。         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」～何かしてもらった時 等</li> <li>・「ごめんなさい」～いやな思いをさせた時 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の学校生活の場面でもいくつか想起させる。</li> </ul>	(◆全体として考えが出てこない場合、補助発問を行う。) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;"> <b>補</b> </div> 以下同様
展開前半	○ 教材の絵を見て考え、話し合う。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <b>基</b> 吹き出しにはどんな言葉が入るでしょう。         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これ、落としたよ。→ありがとう、助かったよ。(→どういたしまして。)</li> <li>・ごめんなさい。今度は気をつけます。→大丈夫だよ。ちゃんと前を見てね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を 事の起こった順に提示し、場に合った言葉を考えられるようにする。</li> <li>・ワークシートを活用させる。</li> </ul>	◆教科書は開かせず、拡大挿絵を順次提示することにより、状況を把握させやすくする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> <b>中</b> これらの言葉を言ったときと言わなかったときの気持ちは、どのように違うでしょう。         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言ったとき・言われたとき ～すっきりする。うれしくなる</li> <li>・言わないとき・言われなかったとき ～悲しくなる。嫌な気持ちになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作化させる。</li> <li>・中心となる大切な場面であるので、児童の発言や思いを黒板にまとめる。</li> </ul>	◆言葉にすることで、お互いの気持ちを通じ、気持ちよく生活できることに気づかせる。 ◇これらの言葉を言ったときと言わなかったときの気持ちの違いについて考えることができたか。
展開後半	○ 大切な言葉について発表し合う。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <b>基</b> 「ありがとう」「ごめんなさい」の他に、大切な言葉にはどのような言葉があるでしょう。         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いただきます。ごちそうさま。</li> <li>・おはようございます。さようなら。</li> <li>・いきます。ただいま。 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを活用させる。</li> </ul>	◆日常には、大切な言葉がたくさんあることに気づかせる。 ◆この機会にマイナスの言葉についても触れ、言葉には力があることにも気づかせる。

終末	○学習のまとめをする。	<b>基</b> 今日の学習で学んだことをもとに、考えてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的場面での挨拶を考えさせる。</li> <li>・日常写真をスライドショーで流し、大切な言葉について更に理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実際にありそうな場面を想定し、動作化させる。</li> <li>◆日常写真については、実際に体験した場面であり、より身近に感じさせる。</li> </ul>
----	-------------	------------------------------------	--	--

## 5. 指導方法の工夫

### (1) 板書について

伝達性はもちろんのこと、共有化ができる共同性をもったものにしたいと考えている。本時では、テーマは、「たいせつなことば」であるので、児童の中に一本化できるよう板書にもひと工夫したい。

また、中心発問に関しては、**対比**に視点を当てるため、児童の反応をより丁寧にまとめたい。

時に、春より板書を何らかの形で教室に残すようにしてきた。記録性もあるが、多様な考えあつてよいということを道徳の授業を通して児童に知ってほしいためである。また、本校の研究テーマである「自分の考えをもつ」ことにも迫れると考える。

### (2) 書く活動について

先月50音を習うことが終了した。この時期では、なかなか構成のしっかりした考えを書くことは難しいため、「話す」ことに力点を置いた授業としたいが、「書く」についても、展開前半と後半に一人一人が書く活動を取り入れる。毎回、道徳ノートを使用してきたが、多賀先生より使いやすいワークシートでも・・・との話から、今回は現段階で無理のないワークシートを使用させたい。

### (3) 発問について

発問は、子どもの思考や活動を促すもののため、指示ではなく問いかけとなる。よい発問をすると児童は「自ら考えたり活動したくなる」し、その結果「授業のねらいや課題解決につながる」。

本時では、空欄の吹き出しを見て、すぐに答えを出したい児童がほとんどだと予想されるが、そこが終着点ではなく、実はその先に一番考えてほしい中心発問が用意されてるところを逆手にとり授業を進行してみたいと思う。

また、今回はほとんど文字のない資料であるので、挿絵からいかに状況を把握できるかを、場面絵をわざと切り離し、ストーリーを作らせていきたい。そのため、補助発問についてはストーリーを作る場面等で児童の答えによって、その場で必要があれば適時入れていきたいと考えている。

### (4) 1年生とどうとくについて

『「道徳」→「**いきる**ちから」(教科書の題)のお勉強』を合い言葉にして授業を進めてきた。**生きる**と言っても1年生にはピンとこないため、「たべることもいきること」「ひととかかわることもいきること」「じぶんをみなおすのもいきること」などとかみ砕きながら学習を進めている。

本時も合い言葉の後に、「人はたくさん言葉を使って**生きて**います。ですから、今日は生きていくためにたいせつとなることば(主題名「たいせつなことば」)のお勉強をする1時間にしましょう。」と導入していく予定である。

# 1年生公開授業まとめ

		○良かった点	△工夫・改善点	□その他
授 業 全 体 に つ い て		<p>○授業全体の流れは、子どもの活動を通して、ねらいに迫るものになっている。</p> <p>○言葉さがしの活動は、意識の掘り起こし・考えの共有・意欲化につながっている。</p> <p>○ねらいに向かって、活動がよく整理された授業展開となっていた。</p> <p>○自由に自分の考えを発言できる学級風土が醸成されており、子どもたちは活発に取り組んでいた。</p> <p>○「言われないと絶対に嫌だ」という子どもの発言があり、自分事として考えようとしていた。</p> <p>○本時のねらいは達成されていたと思います。</p>	<p>△動作化、日常の活動については、示範を含め、もう少し時間をかけて取り組ませても良かったかもしれない。</p> <p>△動作化の場面をもう少し整理できると、実感度も違って、もっと児童から気持ちを表す言葉が出てきたのではないかな。</p> <p>△本時のめあて「たいせつなことば」は抽象的であるように感じた。子どもの発達段階から、「気持ちのよいあいさつ・ことばづかい」とすると、終末に結びついていくのではないだろうか。</p> <p>△消しゴムを落として無言の時、自分が言わない理由として「恥ずかしい」の方向に言ったが、無言だと相手はどう思うかをもう少し考えても良かった。</p>	<p>□「ありがとう」「ごめんなさい」を、相手も自分も良い気持ちになるためにはどのように言ったら良いか（例：目を見て、声の調子など）まで発展させるとどうか。</p> <p>□動作化は、ペア以外の形態もあるとより深まったか。（教師と児童・ピックアップした児童）</p>
指 導 方 法 の 工 夫	板 書 に つ い て  書 く 活 動	<p>○プロジェクターによる挿し絵の提示は効果的。</p> <p>○言ったときの気持ちを表す表情の絵はわかりやすい。選ばせても良いかも。</p> <p>○めあての「たいせつなことば」を後ろに記し、短冊で掲示していくという工夫があり、効果的だった。</p> <p>○資料が大きくて見やすかった。</p> <p>○吹き出しをくり抜いている工夫が良かった。</p> <p>○大切な言葉が伝わる提示・板書になっていた。</p> <p>○場面を想起させやすい挿し絵や構成だった。</p> <p>△場面挿し絵はもっと大きくても良いのでは。（配置や板書のねらいにもよるが）</p>		<p>○考えの文字化は、学習方法として理解を深めることにつながる。（場面の想定から心情の想像）</p> <p>○場面絵の吹き出しに書くのは、1年生にとってイメージしやすく書きやすい。</p> <p>○どのセリフから考えると良いかを青鉛筆で①②と書いてから活動したので、スムーズだった。</p> <p>○1年生の教材としては、実態として合っていると思った。</p>

	<p>□みえるモンの記録機能を使うと、あとでも振り返りができる。</p>
発問	<p>○語りかけ口調の発問は、発達段階に合っている。</p> <p>○導入で学校だけでなく、家でも使うことがある「ありがとう」「ごめんなさい」を押さえたのは良かった。</p> <p>△中心発問は2つではなく、「言った」「言われた」「言わなかった」「言われなかった」の4つに分けた方が子どもたちも考えやすかったのではないか。</p> <p>△「言った・言われた」と「言わない・言われたい」は4つ考えなければならなかったのに、厳しいと感じた。「言ったときは?」「言わないときは?」と区切って発問すると良いと思った。</p>
その他	<p>○道徳的な価値を気付かせるための言語化、日常の取り組みが重要だと思います。そのためには、目標に近づかせるある程度の「まとめ」はあってよいものだと感じました。(言葉探しへの活動につながっている)</p> <p>○この発達年齢の児童にとって、「あいさつ」の言葉の必要性を定義づける良い機会となっていた。そこから広がる「人と人をつなげることば」の大切さにも、児童はよく気づけていたと思う。→教えることと自分で気づいたことの融合</p> <p>○「どういたしまして」という発言に、第3の言葉として子どもの考えを生かすことで、意欲の向上が図られたと思う。</p> <p>○前に集まったり、動画を見る位置も変えたり、発達段階に合わせてやっていたと思う。</p> <p>□動作化は、子ども同士である必要はないかもしれない。担任と子どもでやってみるのもありかな。</p>

## 第2学年 道徳学習指導案

1. 主題名

「みんな 友だち」【内容項目：B 友情、信頼】

2. 本時のねらい

友達を悲しませて、自分たちただけで遊んでも楽しくないこと、みんなと仲良くあそんだほうが楽しいことに気づき、友達と仲よくし助け合う心情を育てる。

3. 資料名

「およげない りすさん」

4. 本時案

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○友達と仲良くできた体験やけんかしてしまったときの心情をアンケートから想起する。	・事前にとったアンケートをもとに、代表的な結果を紹介する。	◆友達は仲良くて大切な存在であると同時に、けんかや嫌な思いをすることもあることを確認して、「みんな笑顔になるにはどうしたらよいか」という問題意識を持つことができるようにする。
展開前半	○ 資料「およげない りすさん」の範読を聞く。	・教師が範読する。	◆あらすじを場面絵やペーパークラフトで登場人物、状況を押さえる。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0f7fa;"> <p>Ⓚ 亀さんたちみんなは、どのような気持ちで「りすさんは、およげないからだめ。」と言ったのでしょうか。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泳げないから島に行けないよ。</li> <li>・かわいそうだけど、ことわろう。</li> <li>・ぼくたち、早く遊びに行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「りすさんは泳げないからだめ。」の後のせりふを考えさせ、自分のことしか考えていない亀たちの気持ちに共感させる。</li> </ul>	◆あひるとかめと白鳥は、泳げる中で、りすだけが泳げないことを押さえた上で、遊びたい気持ちを優先してしまった亀たちの心情に共感できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0ffe0;"> <p>Ⓛ その時、りすさんはどんなきもちだったのでしょうか。</p> </div>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりぼっちでかなしい。</li> <li>・みんなといっしょに島に行けなくてざんねん。</li> <li>・しょんぼり。</li> <li>・悲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りすの気持ちを考えさせ、</li> </ul>	◆自分たちの言葉でりすさんが嫌な気持ちになったことにも気付かせる。



④ 少しでも楽しくなく遊んでいる亀たちは、どんなことを考えているでしょう。

- ・りすさんに悪いことをしたかな。(反省)
- ・りすさん一人でかわいそうだな。(思いやり)
- ・いじわるなことをしちゃったかな。(反省)
- ・みんなで遊んだ方が楽しいな。(協力)

- ・ワークシートに書かせる。
- ・何名か役割演技をさせる。
- ・亀たちが島での遊びを楽しめない根拠を問うことで、りすさんのことを考えたからであることを押さえる。
- ◆りすさんへの思いやり、自分たちの行動の反省など、板書する。

- ◆自分の考えをワークシートに書く。
- ◆楽しみにしていた遊びも、りすがいないことで、楽しめない亀たちの心情を捉える。
- ◆役割演技をする。
- ◇思いやりの心や仲良くできなかった時の後ろめたさなどの多様な価値を考えることができたか。(ワークシート・発言)

展開後半

④ みんなが笑顔になるためには、どうしたらよいでしょう。

- 《あひる・白鳥》
- ・背中に乗せてあげて飛ぶといい。
- 《かめ》
- ・背中に乗せて泳いであげるといい。

- ・「みんなが笑顔になるために」どうしたらよいか考えさせる。

- ◆かめがりすを背中に乗せて泳ぐ場面などをペープサートを動かしながら、それぞれのよさを補い合うことの大切さを捉えるようにする。
- ◇泳げないりすさんをどうしたら一緒に遊べるか考えることができたか。(発言)

④ 亀さんがりすさんを背中に乗せて池を渡っているときの、みんなの気持ちを考えましょう。

- 《りす》
- ・仲間に入れてくれてうれしい。
  - ・一緒に遊ぶのが楽しみ。
  - ・かめさん、ありがとう。
- 《亀たち》
- ・りすさんが喜んでくれてうれしい。
  - ・仲間はずれにしてごめん

- 自分の考えをワークシートに書かせる。
- 役割演技をさせる。
- 教師がインタビューすることで、全体へとつなげる。

- ◆仲良く助け合うことのよさを感じているどちらの立場にも、自我関与し、役割演技をすることで、価値の理解を深めさせる。
- ◆3人である場面と4人で島に向かっている場面を対比し、楽しくなったわけを考え、りすのために話し合い、

	<p>ね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで遊ぶのが楽しみだ。</li> </ul>		<p>行動したことがみんなの楽しさにつながったことに気付かせる。</p> <p>◇友達と仲良く助け合うこと のよさに気付いているか。 (ワークシート・発言)</p>
<p><b>基</b> いっしょに遊べない友だちがいたら、どうしたらよいでしょう。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかよくできる方法を考える</li> <li>・友達に合わせた遊びをする。</li> <li>・楽しくなるように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書かせる。</li> <li>・もし、書けない子がいたら、具体的な場面を設定して、支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ワークシートに書く。</li> <li>◆班で発表し合うことで、多様な考えを知る機会にする。</li> </ul> <p>◇自分の友達への関わりをふり返り、友達と仲良くしようとしているか。(ワークシート・発言)</p>
終末	<p>○学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が見取った児童の友達関係のよさを取り上げる。また、これからも「みんな笑顔」になるために行動しようという温かい、雰囲気でおわるようにする。</li> </ul>	<p>○「なかよしの木」の中から、児童が書いた「なかよしりんご」を紹介し、自分ごととして捉えられるようにする。</p>

## 5. 指導方法の工夫

### (1) 導入について

導入の段階では、学習する道徳的価値について、今の自分の姿や感じ方を確かめ、問題意識を持つことができるように、事前に書いたアンケートを紹介する。アンケートから、友達は大好きで仲良くしたい相手であると同時に、一緒にいると上手くいかないことがあり、嫌な思いをすることもあるということにも気付かせる。

### (2) 表現活動（役割演技タイム）について

ねらいとする道徳的価値について、自分との関わりで考えさせるために、役割演技タイムを2回取り入れる。演技を通して、演者である児童自身の姿を引き出し、自己理解を深めさせたい。また、演技を見ている子たちには、自分の感じ方を比べるように見る視点を与え、価値の理解や他者理解を深めるようにする。

### (3) 発問について

第1発問で、人間理解を意図した発問を行い、道徳価値を実現することが難しい状況に関する感じ方、考え方を出すことにした。また、補助発問で、友達の気持ちを考えない自己中心的な言動を受けたりすの心情も語らせる。

それぞれの発問では、視点を変えることにより、多面的・多角的に考え思考を深めさせる。また、必要な場合には、全体へとつなげるために、児童の発言の中に、「どうしてそう考えたのですか。」と教師がインタビューすることで、心情面を引き出したい。

そして、友だちの気持ちを考えて助け合った行動が、更に友情を確かなものとし、これまで以上に楽しい気持ちや温かい気持ちにつながっていくことを考えさせたい。

## 2年生公開授業まとめ

		○良かった点	△工夫・改善点	□その他
授 業 全 体 に つ い て		<p>○班の活用・役割演技</p> <p>○ストーリーを1回範読しただけで子ども達が理解できていた。適時、「○○さんはどう言ったの?」という確認がなされていたことも良かった。</p> <p>○授業に取り組む子ども達の姿に成長を感じました。</p> <p>○前向きに考えて自分の考えを述べつつも、周囲のよさを見つけて気付こうという雰囲気は指導が活かされているんだなと思いました。</p> <p>○自然に「りすさん」に自分を同化させ、しっかり考えていた。</p> <p>○児童の活動時間（書くこと・話し合い）が確保されていた。</p> <p>△この教材は、日常の活用へとつなげるのが難しい。泳げないで困ると、他の友達が遊べないことがつながらない。</p>		
指 導 方 法 の 工 夫	導 入 の 工 夫	<p>○役割演技をさせる手立てとして、事前に役割を分担し、書かせ、その記述をもとに演技させる方法が有効だと感じました。低学年の感覚的な学習ではなく、考えを根拠に活動することにつながっていると思います。</p> <p>○児童の発表だけに終わること無く、教師がインタビューにより一度咀嚼して全体に投げかけることで、各立場が共感できた。</p> <p>△導入では、マイナス面に注目しない方が良い。</p>		
表 現 活 動		<p>○初めは固かったが、2年生らしく後半盛り上がっていた。</p> <p>○考えられない子への支援⇒具体的な状況が提示されていた。</p>		
発 問		<p>○物語から実生活に戻すという点については、実際の場面を想定するというのは、やはり難しいものなのだと思います。それでも、大体の児童が想定して自分の考えを述べられていたというのがすばらしいと思いました。道徳的価値の理解から日常実践というのには、一歩ずつ積み重ねることなのだと思います。⇒最初の場面の「言い直し」をさせるのもありですよね。</p> <p>□中心発問は良いと思うが、活用の基本発問が難しい。</p>		
そ の 他		<p>○学習前の机上ルールが明確で、児童が落ち着いた雰囲気での学習に臨んでいた。</p> <p>○発表の仕方が良かった。</p> <p>○板書計画がしっかりされていて、思考の流れがよくわかった。</p> <p>○グループ活動では役割分担もスムーズで、基本的なことが身に付いている子ども達だと感じました。</p> <p>△児童の発言から⇒「嫌な気持ちにならないように」は、違うかなと感じた。結びつけがやや強引だったのでは。</p> <p>□人数が多いから楽しいのではなく、「仲間はずれにしない」から楽しいのでは？</p> <p>□授業公開ありがとうございました。授業構築から指導の実際まで、学ぶべき点がたくさんありました。楽しく、ほのぼのと参観させていただきました。</p>		

<p>□授業のほんの一部しか参観できませんでしたが、生き生きと話し合い、表現する児童の姿が印象的でした。効果的な板書や劇化と相まって、ねらいにせまることができたと思います。</p>
--

## 第3学年 道徳学習指導案

日 時 令和元年11月27日

児 童 函館市立上湯川小学校3年1組25名

指導者 教諭 管野 幸子

### 1. 主題名

「つたえたい言葉は」【内容項目：B 感謝】

### 2. 教材名

「いつもありがとう」（出典：日本文教出版 小学どうとく 生きる力3）

### 3. 教材について

本教材は、主人公「ぼく」が学校の帰り道にイライラして石を蹴ったときに、地域の名物おじいちゃんから注意を受けるが、腹を立てつっけんどんにしてしまうところから始まる。夕食時にそのことを家族に話すと、家族全員からおじいちゃんから受けたお世話の内容やおじいちゃんの思いを聞かされる。その話から、今日の自身の行動を振り返り、明日の朝元気な挨拶と一緒に伝えたい言葉がたくさん浮かんでくるというものである。

心の中に伝えたい言葉がたくさん浮かんできたときの「ぼく」の気持ちを考えさせることにより、心の中の新たな気持ち（尊敬、感謝）を捉えさせ、自分の身近な地域の方の姿に目を向け、自分自身を見つめながら考えさせることができるようにしたい。

### 4. 児童の実態

### 5. 本時案

#### (1) ねらい

人は一人で生きているのではなく、多くの人たちの支えによって生かされている。そのような人たちに対する「ありがたい」と思う気持ちが、感謝の気持ちである。「感謝する」とは、相手の行為をありがたく感じ謝意を表現することである。それは、時と場に応じていつでも行動として表すことのできるものでなければならない。感謝の気持ちを行動で表すためには、まず、自分に向けられた相手の気持ちを「ありがたい」と思う心が大切である。その心は、その人がどのような思いで自分のために尽くしてくれるのかを十分に受け止めたときに自然にわき起こってくるものである。本主題では、

これらのことを踏まえて、安心して安全な生活ができるのは、地域の方々のお世話や支えで成り立っていることに気づかせ、尊敬と感謝の気持ちをもって接していくことの大切さを理解させたい。

(2) 本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <p>④あなたは、地域の方々にお世話になっていることがありますか。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の方々にお世話になっていることを振り返る。</li> <li>・朝、「おはよう」とあいさつをしてくれる。</li> <li>・朝、横断歩道に立って私達の見守りをしている。</li> <li>・会ったら声をかけてくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事例を、写真で提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の方にお世話になっている写真を提示し、本時学習の方向づけをする。</li> </ul>
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いつもありがとう」の前半部分を読む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教師の範読に合わせて、黙読させる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <p>④帰り道、イライラして石を思いきり蹴って、名物おじいちゃんから注意をされたときの「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ぼく」の行動や会話などから推測して、気持ちを考える。</li> <li>・うるさいなあ。道には、誰もいないよ。</li> <li>・ぼくは、今、イライラしているんだ。声を掛けないでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼく」の気持ちに共感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆挿絵を用いて、腹を立てている「ぼく」の気持ちに共感させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いつもありがとう」の後半部分を読む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教師の範読に合わせて、黙読させる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <p>④家族みんなの話聞いて、これまでのおじいちゃんの姿を思い浮かべながら、「ぼく」はどんなことを考えたのでしょうか。</p> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ぼく」の気持ちの変化を考える。</li> <li>・お兄ちゃんが言うように、やっぱり今日は、ぼくが悪かった。</li> <li>・おじいちゃんは、僕のことや周りの人がけがをしないようにという思いをもって、注意してくれたんだ。</li> <li>・おじいちゃんは、家族みんなから頼りにされているんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を使って、反省している気持ちに気付くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ぼく」の自分自身への反省とおじいちゃんへの気持ちの変化を捉えさせる。</li> </ul>

展 開 後 半	<p>㊦ 部屋にもどって、伝えたい言葉がたくさんうかんできたとありますが、どんなことを言いたかったと思いますか。</p>		
	<p>○おじいちゃんに対する尊敬と感謝の気持ちを想像して自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいちゃんは、いつも僕たちのことを考えてくれているんだ。ありがとう。</li> <li>・おじいちゃんは、誰からも頼りにされているから、すごい人だな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を使って、感謝をしている気持ちに気付くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆道徳ノートの吹き出しに記入させることによって、おじいちゃんに対する尊敬と感謝の気持ちを捉えさせる。</li> <li>◆おじいちゃんに対する思いがわくようにする。</li> </ul>
終 末	<p>㊧ お世話になっている地域の方に、どんな言葉を伝えたいですか。</p>		
	<p>○自分の生活から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日も風の日も毎朝立ってくださっている地域の〇〇さんの思いを受け止めて、「私たちのために、いつもありがとうございます」という言葉を伝えたい。</li> <li>・毎朝ごみを拾ってくださっている地域の方に、「ありがとうございます」という言葉を伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ交流を通して、それぞれの考え方や感じ方に触れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆道徳ノートの下段に記入させることによって、日々の生活を支えるために努力をしている地域の方に尊敬と感謝の思いをもって接しようとする実践意欲を喚起させる。</li> <li>◇尊敬と感謝の気持ちをしっかり伝えようという気持ちをもつ。</li> </ul>
終 末	<p>㊨ 子ども安全を守る会の方は、どんな気持ちで立っていると思いますか。</p>		
	<p>○今日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して安全な生活を送ることができるのは、地域の方のお世話や支えのおかげだ。</li> <li>・地域の方には、その思いを受け止めて、「ありがとうございます」という気持ちをもって接したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影したビデオを流す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆どのような思いで地域の方が朝に立っているかを聞くことで、それぞれの児童に自分の学習を整理させる。</li> </ul>

### (3) 評価

- ・安心して安全な生活ができるのは、自分たちを守ってくれる人がいるおかげであることに気づき、感謝の気持ちをもつことができたか。

## 6. 指導方法の工夫

### (1) 資料提示の工夫

- ・導入では、登校時にお世話になっている「子どもの安全を守る会」の方々が立っている写真を提示する。終末では、地域の方が、どのような思いで立っているかを伝えるビデオを流す。子どもの安全を守る会の方々と接点はあるが、どんな思いでいるのかを聞く機会はないので、これをきっかけに、実生活でも生かすことができるようにしたい。





## 研究授業②（3年生）

### 1. 授業者より

- ・資料の提示…身近な生活の様子を写真やビデオに撮り活用した。
- ・交流のしかた…グループ交流を数回実施したが、考えが深まる段階まではいっていない。
- ・発問の工夫…中心発問を変更したが、その点がどうだったか。
- ・今日は児童の反応が弱かった。緊張によるものかもしれない。
- ・最初は教材文を2回に分けて読む予定だったが、長くなると内容がわかりにくいので、3回に分けた。
- ・これまでの授業で顔のマークを入れてみたこともあったが、児童の反応が今ひとつだった。

### 2. 授業について

- 児童の身近な人が出てくることで、自分事として捉えやすかった。
- 教材文を区切って確認したことで、児童が考えを整理しながら学習を進めることができた。
- 共感的・指示的風土から自分の考えを安心して伝えようとする授業だった。共感すると子どもはがんばることができ、日常化につながる。
- 実名が出てくるような、生活と学習がつながるような授業が必要だと思う。→「ひと・もの・こと」と出会う経験
- お世話になっている方に伝える言葉を書く活動は、自分の考えを整理・深めるために有効だった。
- これまでの研究の成果がつぶさに現れていたと思う。
- △写真提示の時、「3年生の誰？」ということに発言が集中していたので、「守る会の人が誰か」というように意識を変えても良かったのではないか。
- △ノートに書かせる時の指示と発問は、全員の準備ができているかを確認した方が良かった。
- △地域の人の思いを深めると、感謝の気持ちが多様化したのではないか。
- △終末での振り返り→自己評価
- 全員が参加しており、子ども達の成長や変化を感じた。
- ビデオを見た後に、「どんなことを伝えたいか」と児童に聞いたらどうなったか。
- 多様な考え方に気付くためには、ヒントやキーワードなどの仕掛けが必要である。
- 「地域の方」という大きなくくりではなく、「〇〇してくれる〇〇さん」と具体的に考えると、児童の考え方の違いが出てくる。

### 3. 指導方法の工夫について

#### (1) 資料提示の工夫

- 写真やビデオで身近な人を紹介することで自分事として考えやすく、意欲付けになった。お世話になっていることを具体的にイメージできていた。
- 日常生活の中にある「感謝のもと」に気付かせる資料を提示していた。
- 挿絵を黒板シアターのように提示することで、主人公の心情の変化を捉えやすかった。
- 地域の方からのビデオメッセージは、感謝の気持ちを伝えるという目標の意欲付けとして有効だった。

- 資料提示と日常化が関連することで、実践意欲を高める手立てになっていた。
- 生の声をビデオで届けることで守る会の方の思いに触れることができ、考え方や捉え方が深まったのではないか。GTとして実際に来てもらう機会があっても良いかもしれない。
- △最初に提示した写真の地域の方に、もっとクローズアップしても良かったかもしれない。中心発問の際に、自分事へのつながりが弱く感じた。
- インタビューのビデオを使うタイミングによって、「ありがとう」の種類が変わったのではないか。

## (2) 交流のしかた

- 友達の発表を聞いて自分の言葉で発表したり、捉えの違いに気付いて再度発表したりしており、意欲が活性化していると感じた。
- 道徳ノートに「大事な言葉を書く」という指示が良かった。
- 周りの意見に気付かせる交流の仕方は、深めさせる意図としては良い。比べたり分類させたりすることにつなげていきたい。
- 児童の現状の発達段階からすると、固定された順で意見を発表していく形で良かった。
- △メモの取り方が少し難しかったのではないか。
- △対象の人物が限定されていたので、意見交流が今ひとつであった。巡回しているパトカーや工事の人なども入れると多様性が出たのではないか。
- △今回の題材では児童の意見が同じだったので、深めることは難しかった。
- 交流の場面は、授業者が何をもって深まったとするかをはっきりさせる必要がある。いろいろな言葉が出れば良いというものではない。
- 今回の交流内容は、「こんな考えもあるのか」という多様な視点から出るような教材ではなかった。(共感型)
- 交流の見取り、グループの会話をどう評価するか。その時の教師の役割は？

## (3) 発問の工夫

- 登場人物の心情変化を読み取らせることで、自分の考えとして自覚させようとしていた。
- 児童の実態に即しながら、ねらいに迫るための発問だった。
- 中心発問を変えたことで、子ども達は考えやすくなった。
- △自分の行動の反省から謝る気持ちの方が強く、おじいちゃんに対して尊敬・感謝の気持ちが表現されていなかった。
- △中心発問から日常化へのつながりをもたせる手立てとして、もう少し意見を出させ、キーワードとして分類しても良いかもしれない。
- △中心発問からは、多様な考え方(深めること)は難しかった。
- △「お世話になっている方に、どんな言葉を伝えたいか」という場面で、誰をイメージして何を伝えたいかの意欲付けが弱かったと思う。あっさり書かせてしまったので、相手意識が強い子はより具体的だったが、大多数は一辺倒な内容だった。
- 中心発問があっさりしていた。「尊敬」「感謝」「謝罪」など、様々な分類ができた。

# 第4学年 道徳科学習指導案

日時 令和元年10月23日

児童 4年1組 男子14名、女子10名 計24名

指導者 教諭 北谷 朋紀

## 1. 主題名

「思いやる心」【内容項目 B-1 親切、思いやり】

## 2. 教材名

「三つのつつみ」(出典：日本文教出版 小学どうとく 生きる力4)

## 3. 教材について

猟師のデルスウは、アルセーニエフを山に案内した時に、休みに入った山小屋で体を休めずせつせとまき割りをした。アルセーニエフは、デルスウを見て不思議に思う。また、デルスウの作った三つの包み(米、塩、マッチ)を見ても、何のために用意をしているのか、不思議に思う。そして、この包みが、次にこの山へやって来るであろう人のために用意したことがわかると、まだ見ぬ人のための思いやりであることに気づき、感心する。

デルスウが三つの包みを準備している訳についてアルセーニエフが聞いた時の気持ちを追求するなかで、目の前で困っている人を助けることが親切であるという考えだけでなく、次に来る誰かのために行動することも親切であることに気づかせる。本教材を通して、普段の生活のなかで自分が行動できたことを実感したり、これから行動しようという実践意欲を高めたりできるようにしたい。

## 4. 児童の実態

## 5. 本時案

### (1) ねらい及び道徳的価値

次に来る人のために自分がすべきことをするデルスウの行為のすばらしさに気づき、人を思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。

よりよい人間関係を築くためには、自分のことばかりを考えるのではなく、相手に対して思いやりの心をもって接することが大切である。親切とは、相手の気持ちや立場を推し量り、自分のことのように思って、相手に対して励ましや援助をすることである。また、行為として助けるばかりでなく、相手を思って見守ることも親切な行為である。

中学年の段階として、相手の置かれている状況、困っていることなどを自分のことのように受け止め、親切な行為を進んで行おうとする心情を育てることが大切である。

### (2) 本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;">                     ㊦ みなさんは、親切にしたことやされたことがありますか？                 </div>		
	○親切にする行動にはどんなものがあるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人を助ける。</li> <li>・荷物をいっしょに持つ。</li> <li>・トイレのスリッパをそろえておく。</li> <li>・使った物を次の人が使いやすいように片付けておく。</li> </ul>	・具体的な親切に事例を、写真で提示するが、整理するまではしないようにする。 ・「次の人のために」してあげている親切の事例についても取り上げる。	◆親切をする側とされる側の行為や心情を考えさせ、価値への方向づけをする。短時間の導入にするために、事例を聞くだけにとどめたい。
展開前半	○「三つのつつみ」の前半部分を読む。		◆教師の範読に合わせて、黙読させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;">                     ㊦ アルセーニエフは、まきや3つの包みを用意しているデルスウを見て、どんなことを思ったのでしょうか？                 </div>		
	○2人の行動や会話などから推測して、気持ちを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・何のために用意しているのか、よくわからない。</li> <li>・今度来る時のために用意しているのかな。</li> <li>・そんなに働かなくてもいいのに、少し休憩すればいい。</li> </ul>	・日常の自分たちの行動と対比させながら、心情を想像させてみる。	◆挿絵のアルセーニエフの表情や手の動きを捉えさせる。 ◆デルスウの不思議な行動を見るアルセーニエフに共感させる。 ◆多様な考え方や感じ方を板書で整理し、自分の考え方や感じ方がどれに強いかを問い掛ける。自分との関
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;">                     ㊧ デルスウの不思議な行動には、何かわけがあるんじゃないかなあ。                 </div>		
	○デルスウの不思議な行動のわけについて、自分なりに見当をつける。  ○「三つのつつみ」の後半部分を読む。	・相手の立場に立って行動することが親切や思いやりの原点になっていることを確認する。	◆投げかけをすることで、デルスウの不思議な行動の真相に迫らせる。

	<p>㊦その後、その山小屋に行ったあなたは、どう思いましたか？</p>			
<p>○アルサーニエフの考えも含めながら、デルスウの行為の心情や意図を想像して、自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•また来る時の自分のために用意していると思っていたけれど、次の人のためだったんだ。なんて親切なんだろう。</li> <li>•誰が来るかもわからない。もしかしたら誰も来ないかもしれないのにすごい人がいるもんだ。私にはできない。</li> <li>•次に山小屋に来た私は本当に助かった。ありがたことだ。</li> <li>•相手が誰かもわからない人のために行動できるなんて。本当に親切な人だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•自分が想像した言葉を道徳ノートに書かせて、ペア交流→全体交流→他の考えのメモにまで活動を広げさせる。</li> <li>•机間指導しながら、想像した考えのよさについて、取り上げて評価する。</li> <li>•児童が記入した素直な考え方や親切への評価に共感する。</li> <li>•交流を通して、多様な考え方や感じ方に触れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分との関わりで考えさせるために、仲間の考え方や感じ方の違いを捉えさせる。</li> <li>◆目の前の人に手を差し伸べる親切と、誰かのために行動する親切があることに気づかせる。</li> <li>◇自分にできることを考えて行動する親切の行為の多様性に気づいている。</li> <li>◆「本当の親切」について考えた経験を振り返らせて、見守る親切があったことにも触れる。</li> </ul>		
<p>展開後半</p>	<p>㊧親切にしたり、親切にされたりするとどんな気持ちになるのかな？</p>			
<p>○親切について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•気持ちいいこと。</li> <li>•やさしくすること。</li> <li>•心が明るくなる。</li> <li>•あったかくなること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•親切について、児童の発言から取り上げてまとめる。</li> <li>•親切する側と、誰かはわからなくてもされた側の気持ちを比較・検討して、どちらの場合にも身近な言葉に表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆進んで親切した行為が、周りのたくさんの人を気持ちよさせ、自分自身も前向きな気持ちになることに気づかせ、児童の実践意欲を高めさせる。</li> </ul>		
<p>㊨相手が目の前にいなくても、その人のために行動できたことはありますか？</p>			<p>○今までの自分を振り返り、目の前にいない誰かのために行動した親切について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•学級文庫の本が乱れていたの、きちんと並べておいた。次の人が本を取りやすそうだった。</li> <li>•教室のマーカーを整理したら、先生に「ありがとう」と言われた。うれしかった。</li> <li>•トイレの洗い場周辺に水が飛び散っているのに気づいて、拭いておいた。気持ちがよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆できた親切の行為だけでなく、その親切ができた時の自分の気持ちや、次の人の気持ちについて書かせてみる。</li> <li>◇人に気づかれなくても誰かのために思ってする行為こそが、親切や思いやりであることに気づいている。</li> <li>◆できた親切の行為を自由発表させて、児童の実践意欲を高める。</li> <li>◆児童から自然に出てきたプラスの発言を認め、称賛する。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>㊩人に親切にすることで、親切の輪が広がっていくといいよね？</p>			
<p>○学級の具体例を想起して、自分たちの親切や思いやりを自覚し、行動できた親切について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•できていることを積極的に認め、メタ認知させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆できた親切の行為を認め、それをみんなで継続していくことを確認し、児童の実践意欲を高める。</li> </ul>		

### (3) 評価

◇自分にできることを考えて行動する親切の行為の多様性に気づいている。

◇人に気づかれなくても誰かのためを思ってする行為こそが、親切や思いやりであることに気づいている。

## 6. 指導方法の工夫

### (1) 資料提示の工夫

黒板に挿絵を掲示して、「黒板シアター」化することによって、話の流れをつかみやすくしている。それだけでなく、その学習の主題に迫るための具体物であったり写真であったりを、導入時に提示することにも努めている。今回は、身近な生活の中で「次の人のために」してあげている親切の事例について写真で提示することで、親切の多様性について想起しやすくするようにしたい。

### (2) 深める活動の工夫

発問に対しては、児童の発言や発表を取り上げながら、中心発問については、道徳ノートに自分の考えを記入することに主眼を置いて学習を進めてきた。自分の考えは、ペア交流から集団交流へとつなぐことで深めさせてきたが、次のステップとして、自分の考えと仲間の考えとを比較し、仲間の考えのよさや違う発想に着目させることに発展させながら、多様な考え方や感じ方に触れさせる機会を設定している。同じ考えに気づいて共感するだけでなく、他の考えにも気づいて共感することが道徳の学習のねらいであることも実感させたい。

### (3) 道徳ノートへのコメント記入

記入した児童の考えについては、できる限り教師からのコメントを記入している。その学習の主題に迫らせるために結論に誘導していくコメントではなく、児童の考えを肯定し共感することで、多様な考え方や感じ方を引き出させるようなコメントを心掛けている。

そんなやりとりを重視した指導を重ねていくことで、多様な考え方や感じ方ができるようになり、道徳の学習環境づくりの一つ、児童の発想を引き出す下地作りになっていくと考えている。児童が自ら考えて道徳的価値に触れられる機会こそが、道徳の学習であると捉えさせたい。

7. 板書計画

⑦ 思いやりも親切なまきのだらひかっ



事例写真

事例写真

事例写真

事例写真

☆ まきのだらひの三つのみを注意しているデルスワを見て…

挿絵①

- ・何のために注意しているのか、よくわからない。
- ・今度来る時のために注意しているのかな。
- ・そんなに働かなくてもいいのに、少し休憩すればいい。

☆ その後、その山小屋に行ったあなたは…

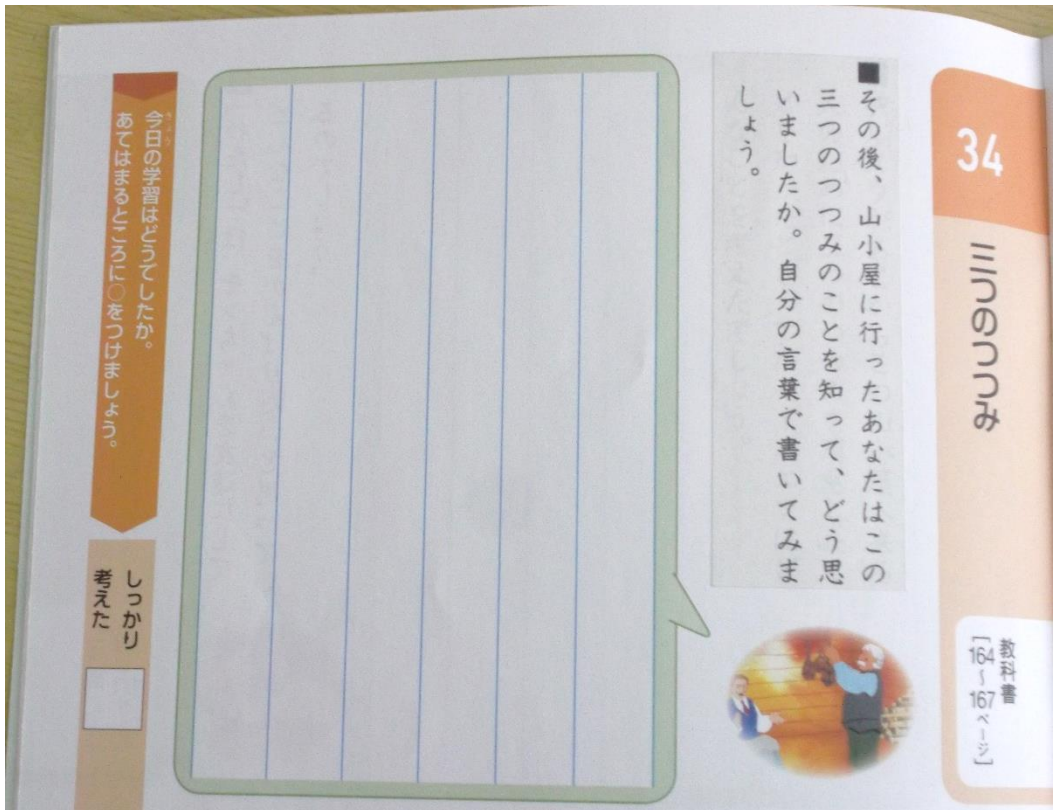
挿絵②

- ・また来る時の自分のために用意していると思っていたけれど、次の人のためだったんだ。なんて親切なんだろう。
- ・誰が来るかもわからない。もしかしたら誰も来ないかもしれないのにすごい人だ。私にはできない。
- ・次に山小屋に来た人は助かるから、喜ぶだろう。本当に親切な人だ。
- ・相手が誰かわからない人のために行動できる人は、すごい人だ。



⑥ 思いやりも親切は…

8. 資料





## 第5学年 道徳学習指導案

### 1. 主題名

「古いバケツ」【内容項目：B 友情・信頼】

### 2. 本時のねらい

男女で共に活動することの喜びに気付き、お互いの良さを認め信頼し合いながら、男女が仲よく助け合おうとする心情を深める。

### 3. 資料名

「古いバケツ」

### 4. 本時案

	○学習活動 ・予想される児童の反応	教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○本時の学習教材と課題を知る。 ○普段の学級の様子、特に男女仲について交流する。 ・みんなと仲良い ・普通 ・特定の人とは仲が良い	・休み時間、係活動、班活動、宿泊研修などの様子を交流する。	
展開前半	○「古いバケツ」の範読を聞く内容を振り返ながらあらすじをつかむ。	・教師が範読する。 ・男女の関係性をデジタルコンテンツ収録の挿絵を使用して、黒板に表す。	◆教科書を指で追わせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>Ⓔ 男子がさぼっていたのに、のりゆきさんだけ水くみを始めたのは、なぜでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうじしないとまずい</li> <li>・変なこと言ってしまった。</li> <li>・女子と協力しないといけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解が不十分な場合、次の一文に注目させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>Ⓕ のりゆきさんは、「きまりが悪そうな顔をした」ようです。</p> </div>
展開後半	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>Ⓖ 明るい気持ちになって男子とそうじを続ける「わたし」は、どんなことを考えたのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかしないでみんなできればいい。</li> <li>・協力することが大事</li> <li>・男子が最初からちゃんとしてくれれば良かったのに。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをワークシートに書かせる。</li> <li>・書いている内容を机間指導で確認し、発表させる。</li> </ul>	◆基1と基2を合わせて、男女双方の気持ちを考えさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>Ⓖ 男女、クラスメイトと仲よく活動するためには、どんなことが大切になるでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやり協力する</li> <li>・男女関係なく遊ぶ</li> <li>・相手の心を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをワークシートに書かせる。</li> </ul>	◇普段の生活で仲よく過ごすには、何が大切か考えることができる。

	・だめなことは注意し合える。		
終 末	○ワークシートにふりかえりを 書く。		◆教師から価値観を教えな い。

## 5. 指導方法の工夫

### (1) 資料の提示

これまでの道徳の授業の中で、教科書・ノートを使用、ノートを実態にあった形で使用、デジタルコンテンツを利用など様々なパターンを行ってきた。その様子を見ていくと、教科書でも集中できる実態があるので、教科書を通常通り使いながら、デジタルコンテンツの挿絵を利用するやり方で行う。

### (2) 書く活動について

これまでの道徳の授業の中で、道徳ノートを使って行ってきた。ただ前回の多賀先生の研修で使いやすいワークシートを使うというお話があったので、デジタルコンテンツのワークシートを一部加工して使用する。

※別紙ワークシート参照

### (3) 発問について

高学年ということで、補助発問や読解についてはできるだけ少なく行っている。中心発問は、これからは生かすことができるかを重視し、できるだけ時間を取って考える時間を増やしている。また、今回の中心発問は、男女仲が比較的良いクラスの実態があるので、生かすことができるように「クラスメイと仲よく活動するためには」と付け加えている。

## 5年生 公開授業 (7/12) まとめ

		○良かった点	△工夫・改善点	□その他
授 業 全 体 に つ い て		<p>○教材文のとらえの段階で、子ども達は自分たちとの相違点を比較できていた。</p> <p>○互いに人間関係が良好である学級風土ができていて、授業に取り組んでいた。</p> <p>○導入から本時への流れが自然であった。</p> <p>○児童が雰囲気づくりをしている（自由に発言しているが、方向がずれていなく、発言の質が良い）。</p> <p>○学級の実態から、児童が身近なこととして捉えづらいうように感じたが、「もし…」と仮定することで、自分事に近づけていた。</p> <p>○日常の良さを認めた上で、学習が展開されている。</p> <p>○児童の考えを認める教師の姿勢は、肯定的風土につながると思う。</p> <p>○もっともっと意識的に指導的評価を入れていってもいいと思います。取り上げてはいますが…。</p> <p>△多様な考え方を知る観点から、任意に発表者を決めていたのですが、意図的に相反する記述内容を発表させ、上記の視点に迫らせてみてはどうでしょうか。</p> <p>△普段から仲良しなので、もともと問題意識がない。このような教材の（とびつくものがない）時はどうすると良いのか。あった方が盛り上がるし、深まると思う。</p> <p>△最後はキーワードだけでも色つきチョークで板書していくと、なお良いと思う。（良い発言が多かったので）</p> <p>□導入…㊦「こういうことある？」㊦「ない！」→このような発言があると、あまり自分のこととして考えない雰囲気になってしまうのでは。目的は達成されたから良いのでしょうか。</p> <p>□ねらいと児童の思考が正対していたのか？</p>		
指 導 方 法 の 工 夫	資 料 の 提 示	<p>○登場人物たちの心情的流れが板書の位置に反映されていた。</p> <p>○高学年には適量であった。</p> <p>○挿し絵と矢印により、内容をつかんでいた。</p> <p>○黒板シアター化は、流れを把握しやすいので良い。</p> <p>△挿し絵が小さい。（表情が大切だと思う）</p> <p>△5年生の実態を考えると、「新しいバケツ」の必要性を感じていないようである。自分事として捉えるために、男子が優先と考える演技役を登場させる等の場面設定の工夫が一つあればどうでしょうか。</p> <p>△紀之さんの表情からもくみ取れるものがあるので、そこに着目させても良かったか。</p>		
活 動		<p>○時間が十分確保されていた。</p> <p>○実態に合わせてワークシートを作ったこと。</p> <p>△ワークシートは道徳ノートに貼れるサイズにすると良い。</p> <p>△ノートの発問を変えていたが、「男女」の部分は？</p> <p>△明るい気持ちになれたことを評価する考えを強調した取り上げを意識してみても良いのでは。</p>		

	<p>△児童から出された「よりよい生き方」のキーワードを板書して、印象づけても良いのではないか。</p>
<p>発問</p>	<p>○児童の発言から、補助発問へつなげて深めようとしていた。  ○おそらく指導書通りの発問？  △発問1...「ヒント」←国語の読み取りになってしまう。  △さらっと流れてしまった。  △発問の意図がくみ取りにくいことがあったかな？  □「すんだ水の中で、指がすっきりきれいに見えました。」の部分がポイントだと思う。</p>
<p>その他</p>	<p>△終末段階では、今後の生活につなげていけるように、説話や板書の活用・ことわざ等を用いてはどうでしょうか。  △男子・女子の良さを認め合う部分が、もう少し出てきても良かった。  △児童の意見の「スッキリした」は「すんだ水の中で...」と連動できる内容だったので、そこからもう少し広げていけないか。  □教科書教材を扱う時に、教材名や価値項目を提示することの効果  □男女の対立が無い状態で、この教材文を扱う必要があるのか。  □こういう教材もあっていいのかな？  □日常の出来事の中にありそうな題材、ないとしても想定して考えることや、自分だったらどうするのかについて想像することも、立派な道徳の学習ではないかと思っています。特別なこと、心にもものすごくささる教材でなければ意味がないとは思いません。普通の教材の中にある道徳的価値も、十分に学べる題材ではないでしょうか。</p>

■ 明るい気持ちになって男子とそうじを続ける「わたし」は、  
 どんなことを考えたのでしょうか。


■ このクラス23人で活動するのは、残り1年半です。  
 男女、クラスメイトと仲よく活動するためには、どんな  
 ことが大切になるのでしょうか。


今日の学習はどうでしたか。  
 あてはまるところに○をつけましょう。

しっかり  
 考えた

新しく気づいた  
 ことがあった

これからたいせつに  
 したいことがわかった

## 第6学年 道徳科学習活動案

日時 令和元年9月4日（水）

児童 6年生 男子4名、女子14名 計24名

指導者 横山嘉弘

### 1. 主題名

「思いやりの心」【内容項目 B-1 親切, 思いやり】

### 2. 教材名

「心づかいと思いやり」

### 3. 教材について

まず、見知らぬ車椅子の人が段差の前で困っているという場面設定で、今の自分なら何を「思い」、どんな「行為」をするかを考えさせる。実際に演じてみることで、「行為」から「思い」が具体的に表現されていくこととなる。3つの役割演技からいろいろな「思い」を引き出すことができるだろう。

また、詩『行為の意味』で心と心づかい、思いと思いやりの違いを押さえることで、自分達の消極的な「思い」や「行為」を積極的なものに変えるには何が必要かを考えさせる。さらに、相手の立場に立って、自分がどのように対処することが相手のためになるのかにも考えを広げていきたい。

終末の資料「気配りのリレー」で、勇気を出して親切な行為を自ら進んで行っていこうとする意欲を高めることができるだろうと考える。

### 4. 児童の実態

### 5. 本時案

#### （1）ねらい及び道徳的価値

思いを思いやりに変えるにはどうしたらよいかを考えさせることを通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場で勇気ある行為をしていこうとする意欲を高める。

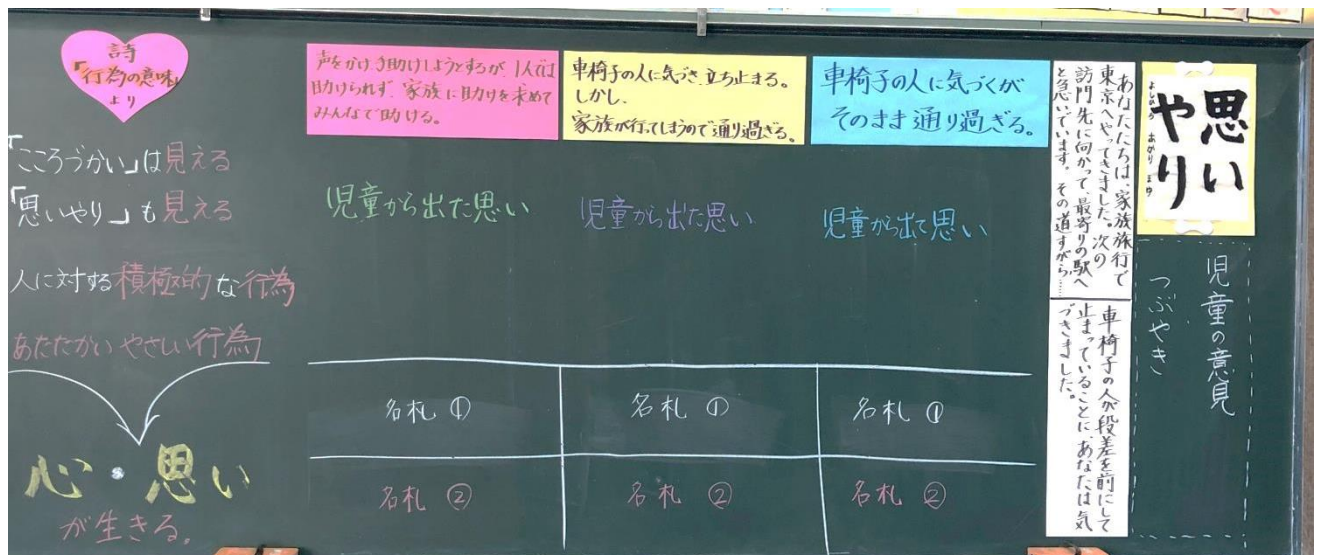
人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことが大切である。

(2) 本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	□教師のかかわり	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○「思いやり」とはどんなことを考える。	□前回、書写の授業で「思いやり」という言葉を書きましたが、みなさんは「思いやり」とはどんなことだと思いますか？	
展開 ①	<p>○提示された3つの「行為」について、グループで役割演技をし、その時の「思い」を考え、話し合う。</p> <p><b>思 い</b></p> <p>①・私には関係ない。・誰かが助けてあげるだろう。 ②・どうしよう、声をかけようかな。・でも、わたしたちも予定があるし。 ③・困っているみたいだから、助けてあげよう。・1人では無理だ。・誰かに助けてもらわなくちゃ。・みんなに助けてもらおう。</p>	<p>□グループごとに「行為」を一つ演じてもらい、「自分役」のその時の「思い」を児童に考えさせ、出てきた意見を板書する。</p>	<p>◆場面設定 家族との出かけ先で、車椅子の人が段差の前で止まっている。</p> <p>①車椅子の人に気付くが、そのまま通り過ぎる。 ②自分は車椅子の人に気付き立ち止まる。しかし、家族が行ってしまうので通り過ぎる。 ③手助けしようとするが、1人では助けられず、家族に助けを求めてみんなで助ける。</p> <p>◆全員が各場面を共有できるように一つの場面ごとに「思い」を考えさせる。</p> <p>◇今の自分を客観的に捉えて、素直な気持ちで見つめている。(黑板名札)</p>
	<p>○今の自分なら①～③のどの行為をとるかを考え、名札を黑板に貼る。</p>	<p>□黑板の①～③の「思い」の場所に名札を貼らせる。</p>	
展開 ② 前半	<p>○詩「行為の意味」を読んで、話し合う。</p> <p>・こころは見えないけれど、こころづかいは見える。 ・思いは見えないけれど、思いやりは見える。 ・こころづかいや思いやりは、人に対する積極的な行為だ。 ・心や思いがあたたかいやさしい行為になってこそ、心や思いが生きる。</p>	<p>□詩「行為の意味」を読んで大切だと思ったところはどこかを問う。</p>	<p>◆「思い」と「思いやり」の違いを問うことで、その違いをしっかりと押さえるようにする。</p>
	<p>○「行為の意味」を読んで、どう思いましたか？</p>		

展開 ② 後半	<p>Ⓚ 困っている人がいたら、これから自分はどうしたいですか。</p>		
	<p>○ワークシートにこれからの自分の姿を書き、始めの自分の行為と変容があったら、もう一つの名札を①～③の場所に貼る。</p>	<p>□記入内容を見取り、変容があった児童にはどのような考えから行為が変容したのかを尋ねる。</p>	<p>◆行為に変容の見られた児童を認める声かけをする。</p>
	<p>Ⓛ 「こころ」や「思い」を「行為」にするとときに大切だと思うことは何ですか。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かではなく自分がという気持ち</li> <li>・自分の思いに正直に行動すること</li> <li>・勇気を出して行動に移すこと</li> <li>・こころや思いを意味のあるものにするために行動すること</li> <li>・困っている人の気持ちを自分のことのように想像すること</li> </ul>		
終末	<p>○新聞記事「気配りのリレー」を読む。 ○感想を書く。</p>	<p>□新聞記事「気配りのリレー」を読み聞かせる。 □今日の授業で気付いたこと・わかったことなどを感想に書かせる。</p>	<p>◆あたたかい行為が身近にたくさん溢れていること実感させるようにコメントする。</p>

板書計画





## 6. 指導方法の工夫

### (1) 役割演技の活用

今回は、資料の読み取りから登場人物の思いを想起させるのではなく、場面を限定した役割演技を演じる・観ることにより、主観的な思いと客観的な思いを同時に引き出すことから授業を展開していきたいと考えた。場面を限定しつつも、多様な捉えができるような設定で演じさせることにより、演じた側の主観的・体験を基にした「思い」と、見ている側の客観的な「思い」を引き出していきたい。

### (2) 板書の工夫

児童のメタ認知を促す手立てとして、2種類の名札を使用し、始めの自分と、授業を通しての変容後の自分を認識できるようにした。

### (3) 発問について

今回の授業は、自分の本当の「思い」を「行為」として表していくには、状況や場面、人間関係の深さに左右されずに、それが人間としてかけがえのないものだということを感じさせる一端となってほしいと考える。

そこで、自分のメタ認知を促す発問から道徳的価値を問う発問へと繰り返すという順序で構成してみた。

## 6年生 公開授業 (9/4) まとめ

		○良かった点	△工夫・改善点	□その他
授 業 全 体 に つ い て		<p>○ロールプレイを組み込みながら児童の见えない心を引き出して、見える心遣いや思いやりにもまで高めようという指導者の意図が感じられました。</p> <p>○児童の実態を踏まえながら授業構想がなされ、役割演技を通して意欲を高めようという学習の工夫がされていて、自分事として考える手立てになったと思います。</p> <p>○分かりやすく丁寧に進めていた。</p> <p>○具体的な場面設定は、思考の助けになっていた。</p> <p>○高学年らしい落ち着いた中で思考を深めていたと思います。</p> <p>△内容的に1時間で収めるためには、どこかを削らないと難しい。</p>		
指 導 方 法 の 工 夫	役 割 演 技	<p>○全員がロールプレイに参加することで、学習をする主体としての意識がもてたのではないかと思います。また、ロールプレイを3パターンに分けることで、心遣いや思いやりという行為に目が向けられ、それによって自分ならどうするかという主体的な学びにすながっていったのではないのでしょうか。少しであっても、変容した自分・変容しようという自分に気づけたものと思います。</p> <p>○役割演技をたくさん行うことで、違いを考えながら場面を想像することができた。</p> <p>○冒頭の役割演技は斬新でした。こういうやり方もありなのかと。</p> <p>△「考え」を線引きしなくても良いことをもっと知らせる。難しいことですが、心の葛藤が見えてもいいのではないかと。</p>		
	板 書	<p>○変容を見ることができた。</p> <p>○板書計画がしっかりされている。</p> <p>○2種類のネームプレートを使ったことで、児童の心の変容が視覚的にわかりやすく提示されたのが良かったです。</p>		
	発 問	<p>○「行為」という哲学的な命題がもとになってはいるが、現象化することの大切さを感じる学習になっていたと思います。その時その時で、発問に応じて「演じる人・ロールプレイの中の自分・学習者としての自分」という立場を使い分けるのは大変だったと思うが、真剣に考える雰囲気があって、悩んだり葛藤したりすることができたと思います。</p> <p>○思いを発出される発問⇒①の場面で...㊦「やりたかった」㊧「何を？」㊨「助けたかった」</p> <p>○児童の発言に応じて様々な補助発問がなされ、本音を引き出したり、思考を深めたりすることができていたと感じました。瞬時にそのような発問ができるのは、指導者が、この教材を通して児童に伝えたいことが明確だったからだと思います。</p>		
そ の 他		<p>○難しい内容の学習でしたが、児童の実態に合わせてしっかりと学習を成立させてしまったので、この後に授業をする者としてはハードルが高くなってしまいました。どうしたらよいのでしょうか？独自に設定したミニハードルを跳び越える構想でいます…</p> <p>○「親切・思いやり」という道徳的価値の大切さに気付きながらも、その場の状況や流れなどから必ずしも道徳的価値の実現にはつながらないこともあるという人間らし</p>		

さについて考えることができる良い授業だったと思います。

道徳的価値は感じる事ができた。この積み重ねにより、道徳的実践力が育ってほしい。